

クラス番号	640	担当教員名	片山 善博
テーマ	共生の人間学（現代社会の人間と文化）		
著書・論文 研究課題等	<p>著書：単著『生と死の倫理』DTP出版(2014)、共著『西洋哲学の軌跡』晃洋書房(2012)、共著『21世紀における語ることの倫理』ひつじ書房(2011)、共訳『越境する環境倫理学』現代書館(2010)、共著『フィヒテ：『全知識学』と政治的なもの』創風社(2010)、共著『共生と共同、連帯の未来』青木書店(2009)、共著『〈人間〉の系譜学：近代的人間観の現在と未来』東海大学出版会(2008)、共著『ヘーゲル』社会評論社(2008)、共著『改訂版共生のスペクトル』DTP出版(2008)、共著『環境思想と環境問題』創風社(2008)、共著『西洋思想の16人』粹出版社(2008)、共著『境界線の哲学』DTP出版(2008)、単著『差異と承認：共生理念の構築を目指して』創風社(2007)</p> <p>研究テーマ：近代ドイツ哲学、承認論</p>		

ゼミナール概要

キーワード：他者、自己、文化、自然、社会

目的、内容、方法等：

哲学的な思考の一つにさまざまな境界線を問い直すというやり方があります。たとえば、日常/非日常、自己/他者、生/死、健康/病気、心/身体、正義/不正、常識/非常識、男性/女性、大人/子ども、仕事/遊び、理性/感性、等々の境界線には現代社会の何らかの価値観が反映されています。境界を考えるということは、現代社会の価値意識がなんであるのかを考えることであり、また境界線を問い直す（ずらす）ことは、現代社会のものの見方を根本から変更することにもなります。物事の真相を探究するとはこうした作業の積み重ねとっていいかと思います。このゼミでは、こうした作業を通じて、〈人間とは何か〉について考察することを目的とします。〈人間とは何か〉をめぐっては、生きることの意味は？人間の価値とは？死とは？私とは？他者と関わることは？コミュニケーションとは？生きる場（人の居場所）とは？などさまざまな問いが無数にありますが、参加者には多くの問いを自由にそして根本的に考えてもらいたいと思います。ただし、ゼミの中で取り上げる具体的な中身は、参加者の個々の関心に基づいて決めていきます。

専門演習Ⅰでは、専門演習Ⅱでの卒業論文作成に向けての基礎的な力の育成を目指します。自分で問題を見出し、論点を明確にし、それを展開していくためのさまざまな方法について学びます。文献の探し方や使い方、アンケートの取り方などの方法と実践を学び、そして調査したことを文章化していくための訓練を行います。さらに、文章化したものをもとに、口頭発表ができるようにします。

授業計画：

専門演習Ⅰでは、前期は文献購読を行います。文献については、初回に決めたいと思います。文献を購読しながら、論点を探し出し、それを基に議論をします。また、議論したことを400字程度にまとめてもらいます。後期は、口頭発表を行います。ゼミ参加者の人数にもよりますが、一回ずつ担当することになります。自ら選んだテーマ（著書でもよい）についてレジュメを作成し、それをもとに口頭発表を行います。レジュメには、論点、調べたことの要約、そして自身のコメント及び疑問点を書いてもらいます。レジュメと口頭発表（20分程度）を踏まえて、参加者間でディスカッションを行います。議論したことについてはそこで終わりにせず、次週までに参加者全員にコメントを記した短い文章（600字程度）書いてもらいます。論理的かつ相手に共感してもらうような表現方法を学び、自らの意見を簡潔に文章化できるようにします。これとは別に、年に数回、映画や音楽鑑賞などの時間を設けたいと思います。

専門演習Ⅱでは、各ゼミ生は自ら選んだテーマに即して卒業論文を作成します。卒業論文提出までに2回中間発表を行います。また、ゼミ時間外に個別指導を適宜行い、卒業論文を作成していくこととなります。ゼミ内では、各ゼミ生のテーマについて出来るだけじっくり議論ができるようにしていくつもりです。

担当教員からのメッセージ

ゼミでは、参加者相互のコミュニケーションがとても大切になります。コミュニケーションを通して人は自己形成をしていくものと考えています。〈異なる意見を尊重する〉。そのことを通して互いを認めていこうという姿勢で参加してください。